

2014年度 大阪大学医学部(共通) 英語 解説

▶和訳、英訳が中心。繰り返し同じ問題を解き、訳を研ぎ澄ます訓練を。

解答方式	時間	大問数	難易度
記述式	90分	4問	標準

■設問別分析

大問	区分	内容	難易度
1	和訳問題	Aはやや難しいが、Bは比較的取り組みやすい。	標準
2	長文読解	読みやすい文章であるが、説明問題が多く、訓練が必要。	標準
3	自由英作文	どんなトピックにも対応できるようにしておく。	標準
4	下線部英訳	日本語を噛み砕く訓練を。	標準

■設問別解説

大問1

短めの文章の和訳問題が2題出題される。

構文、語彙レベルともに標準的であるがやや難しいものも出題される。

以下2014年度の問題。

It is true that science requires analysis and that it has fractured into microdisciplines. But because of this, more than ever, it requires synthesis. Science is about connections. Nature no more obeys the territorial divisions of scientific academic disciplines than do continents appear from space to be colored to reflect the national divisions of their human inhabitants.

■解説

前半は単語が分かれば訳しやすいが、後半は no 比較級 ~ than に気づけるかどうかのポイントとなる。

Nature **no more** obeys the territorial divisions of scientific academic disciplines **than** do continents appear from space to be colored to reflect the national divisions of their human inhabitants.

●no 比較級 ~ than

A whale is no more a fish than a horse is.というクジラ構文が有名であるが、この形を見たら必ず、「than 以下と同様に～」と訳さなくてはならない。

⇒「馬がそうでないのと同様に、クジラは魚ではない。」

したがって、以下のような訳になる。

■解答

確かに、科学には分析が必要であり、これまで細かい分野に分かれてきた。しかし、このことにより、科学にはこれまで以上に統合が必要となる。科学とは、さまざまな分野の繋がりである。大陸が、宇宙から眺めると人間の国別の区分を示すように色付けされているようには見えないのと**同様に**、自然は科学の学問分野の領域的区分に従うわけではないのである。

大問2

長文読解総合。空所補充、意味内容一致、説明問題など様々な形式で出題されている。例年、対比構造を理解していると解きやすい問題が多い。特に設問5の説明問題は対比を意識して読むとよい。

大問3

自由英作文問題。以下 2014 年度の問題

「他人は自分のことをわかってくれない」と思うのはどんな時ですか。またそんな時にあなたはどうか対処しますか。また、それはなぜですか。70語程度の英語で説明しなさい。

まず内容を考えるのが難しいが、設問の指示にしたがい、「どんな時」、「どう対処する」、「なぜ」か、それぞれ2文ほどの文章でまとめることを意識する。

これまでの出題は以下を参照。

2013

もしもタイムマシンがあれば、あなたは使ってみたいですか、使ってみたくないですか。どのように使ってみたいか、あるいはなぜ使いたくないのか、70語程度の英文で書きなさい。

2012

あなたが今までに最も誇りに思ったことは何ですか。70語程度の英文で書きなさい。

2011

日本語には「もったいない」という言葉があります。この言葉がどのような使われ方をするのか外国人に理解してもらいたいときに、あなたはどのように説明しますか。70語程度の英文で書きなさい。

2010

「子供は親の背中を見て育つ」という言葉があります。それでは、親というものは子供にどのような「背中」を見せるべきではないと思いますか。また、それはなぜですか。具体的な例をあげながら70語程度の英語で説明しなさい。

大問4

下線部英訳問題。比較的簡単なものもあるが、難しい言葉で書かれている日本語をいかに簡単な日本語にし、自分で英語にできる表現まで噛み砕くことができるかがポイントとなる。直訳的に英訳すると、不自然な英語になってしまうことが多いので、日本語力を磨いておく必要がある。

以下2014年度の問題。

(A) 言葉以上におたがいを非常に親しくさせるものはありません。にもかかわらず、その言葉を共有しないとき、あるいはできないとき、知らない国のまるで知らない言葉がそうであるように、言葉くらい人をはじくものもありません。際立って親和的にもなれば、際立って排他的にもなるのです。

(D) 「知」、あるいは「知る」ということの根底にあるのは、ものを区別し、区別されたものそれぞれに名前を付け、それを明瞭な形で把握しようとする態度です。それが重要であることは言うまでもありません。